

半導体漫遊記

(305)

湯之上隆

カタールで11月21日から始まったサッカーワールドカップで、日本代表は目覚ましい活躍をした。「死の組」と言われたEグループで、優勝候補の一角のドイツとスペインをいずれも逆転の2対1で下した。Eグループをトップで通過した日本代表は、決勝トーナメント1回戦で、前回大会準優勝国のクロアチアとPK戦にもつれ込む激戦に敗れはしたが、その戦いぶりは世界に衝撃を与えた。

日本代表が予選リーグを突破したのは2002年の日韓大会、10年の南アフリカ大会、18年のロシア大会に続いて今回が4回目である。

いずれも決勝トーナメント1回戦で敗退となったが、今までの大会よりも今回の日本代表は輝き、未来への可能性を示してくる。いづれも決勝トーナメント1回戦で敗退

このワールドカップより一足先の11月10日、半導体の新会社ラピダスが「2027年もなお『ドーハの悲劇』として語り継がれ

「ジャイアントキリング」ラピダスには起きない

れたように思う。

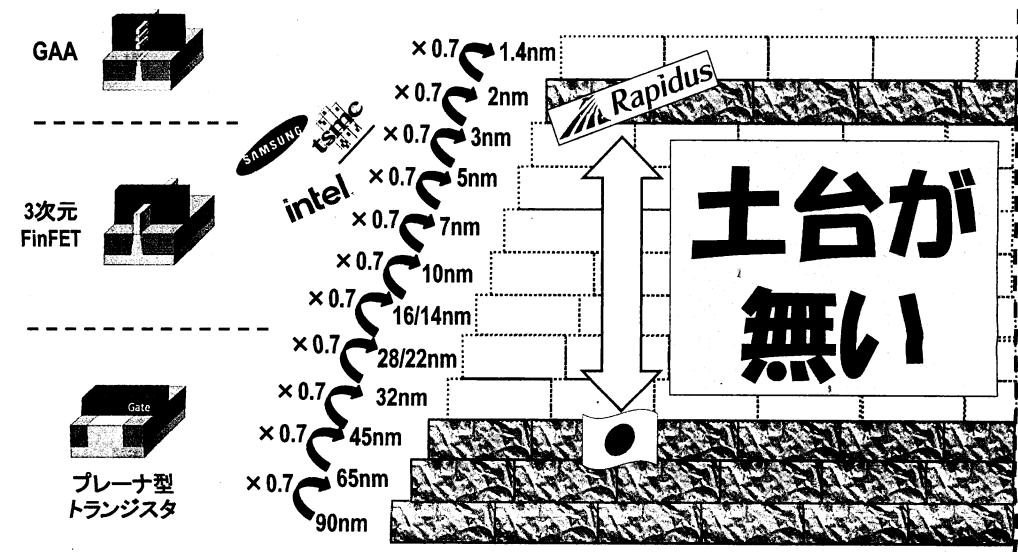
では決勝トーナメントを勝ち上がり、ベスト8に入るには何が必要なのか？ 今回のワールドカップの4試合全てにGKとして出場した権田修一選手は「何かを変えなければいけない。チェンジではなくアップデートし

筆者は、サッカー観戦が大好きな半導体専門のジャーナリストである。そのために、『土台』を積み上げてきている。一方、ラピダスはどうだろうか？ サッカー日本代表のように「2027年に2nmを量産」して「ジャイアントキリング」を起すことができるか？ 筆者の答えは「NO」

ある。そのため、どうしても今回のサッカー日本代表とラピダスを（全然土俵が違うのだ）比較したくなるのである。サッカ

と、さまざまな問題が、つ解決していかねば、B Mと欧州のコンソーシアムimecが協力することに。しかし40nmレベルから3nmまでの技術の蓄積が皆無のラピダスに、誰が何を協力しても2nmの量産はできないだろう。前出の権田GKの言葉

ラピダスにはアップデートするための『土台』が全く無いからだ。サッカーで言えばラピダスは、アジア予選を勝ち上がる力すらないと筆者は思う。



半導体の微細化と『土台』が無いラピダスの無謀な計画

（微細加工研究所・所長）